# 第４章　地域での市民・事業者の取り組み

## １．環境市民会議の取り組み

地域の環境をよくするためには、市民・事業者の皆さんの取り組みが鍵となります。

この章では、環境市民会議の皆さんが各地区においてそれぞれ調査した環境の現状と、一年間の取り組みを報告するものです。

皆さんが住んでいる地区の身近な環境について、知る、考える、行動するきっかけとなれば幸いです。

**環境市民会議とは？**

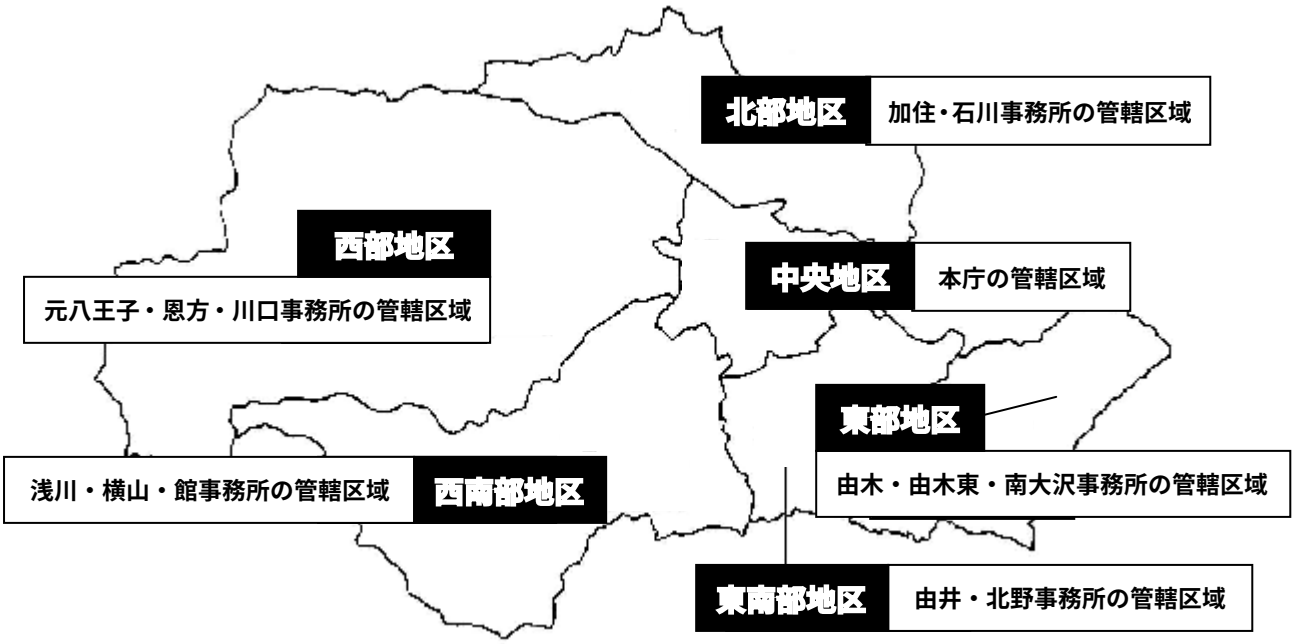
環境基本計画では、市内を６つの地区に分け、各地区ごとに目指す環境の姿を定めるとともに、地区の環境の現況・課題を整理したうえで、多くの課題から絞り込んだ重点課題と、その解消に向けた重点目標、重点取り組みを「地域行動編」として示しています。

その地区の皆さんの行動が最も重要ですが、その地区の取り組みの推進力となるのが環境市民会議です。

環境市民会議は、市民・事業者によって自発的に環境保全活動を実践する組織ですが、環境基本計画の「地域行動編」は、環境市民会議の皆さんによって策定されたものです。

地域行動編の目標を達成するためには、地区内の町会・自治会や各種団体との連携がとても大切です。

**【環境市民会議６地区の区域】**



# 中央地区環境市民会議

**中央地区環境市民会議が調べた環境の現状**

河川の水質は、下水道の普及と共に著しく改善していることを実感できました。

その効果として、川に魚が増えたこともみうけられますが、鵜や鷺の大群が魚を捕食する光景も見られ、困惑しています。犬の糞やごみの投棄など改善が進まない問題や、外来種としてアレチウリなどが河川敷を覆う光景なども確認しました。

大気汚染の状況は、依然として幹線道路沿いや交差点での濃度が高くなっています。

また、駅周辺のタバコのポイ捨てが減少していますが、これは、マナーアップキャンペーンや路上喫煙防止条例の効果によるものと評価されます。

宅地化されたなかで公園の少ないこともあり、神社や寺院、一般の民家において緑が守られている状況があります。

ごみの減量や省エネルギーの啓発活動は定着し効果をあげていると自負していますが、ごみ有料化で減少し再び増加するというリバウンド現象が起こっているようです。

こうした状況を踏まえ、参加者の拡大と啓発活動の多様化が今後の課題です。

## 活動内容

### ■　河川環境

今年は、浅川巡回パトロールの強化を推進しました。

地区内１８カ所の湧水調査により、懸案であった中央地区湧水マップを作成することができ、早速、環境フェスティバルで市民に配布しました。

６月４日は、浅川大橋と鶴巻橋の地点で、全国一斉水質調査を実施。また、１０月１日の第２回自然体験講座「浅川ふしぎ探検」では、４１名の親子に参加いただき、盛況でした。

１１月１０日、浅川の外来植物（アレチウリ、オオブタクサ、キクイモ）分布調査を行いました。

春には、親しみある自然な川を取り戻すための行動として、川部会による中野橋を中心とした清掃活動を実施し、成果が期待以上にあがりました。

浅川のアレチウリ大群生の実態
（H18．10撮影）

市の重点施策である下水道の整備が着実に進み、浅川をはじめ市内河川の測定地点においても環境基準は達成されつつあり、水質は確実に改善されています。

今後は、河川の水量確保のための活動が重点課題となります。

一方、最も苦慮している河川へのごみの不法投棄や犬の散歩マナーの悪さには、残念ながらその道のりは遠く、公共の精神や伝統の文化を尊重する教育の必要性を痛感しました。

## ■　大気汚染

メンバーが分担して地区内の主な場所の二酸化窒素の測定を、２００３年１２月から半年ごとに調査しています。１８年度は6月に6回目、１２月に７回目の測定を各々３４ヶ所で行いました。

この結果、中野上町の値が改善されており、これは、この付近の道路の整備が進んだためと思われますが、更に観測していきたいと思います。

その他では、今までと大きな変化は見られませんでした。一般の住宅街では低い値でしたが、幹線道路で車の通行量、渋滞の多いところの濃度が高く出ています。

引き続き他地区の環境市民会議と連携しながら続けていきます。

## ■　まちのみどり、まちの美観

清川町河川敷をウォッチング

まちの中の緑や生活を中心に、今ある快適環境（景観、憩い）の現状を確認し、環境保全の施策の資料収集に努めました。

また、道路・公園のアドプト活動や地域毎の清掃活動、たばこの歩行喫煙の防止運動などが成果をあげています。

これらの活動の支援に努めます。

公園や緑が少ない中央地区では、定期的に実施している「まちなかウォッチング」から、家々の緑や神社・寺院の樹木が地域住民の手で守られている姿が見受けられます。また、屋上緑化は、ヒートアイランド緩和策の一つとして効果が高いことから、その事例となる市役所本庁舎２階の屋上庭園や一般の家屋を見学しました。

多賀神社の神主さんにお話しを

湧水により、池や水路ができ、緑が生い茂り、これが私たちの憩いの場となっています。

１９年度は、甲州街道沿いや八王子駅周辺のウォッチングを企画。

## ■　ごみの減量・資源循環

正しいごみ分別：環境コーナー

例年の中野・子安・台町・大和田の市民センターまつりをはじめ、みずき通りフェスティバルや学生天国、八王子環境フェスティバル、八王子市職員組合主催の文化祭、いちょう祭り、暮らしの見直し展、西八ハイツ防災餅つき会に加え、新たに清川町の「みんなのふれあいデー」に参加し『ごみを減らそう』環境コーナーを設け、環境に対する意識を高めてもらえるよう、正しいごみの分別の話しや環境クイズを実施しました。写真は、中野市民センター七夕祭りでの環境コーナーの一コマです。

## ■　地球温暖化防止

北野のあったかホールにある環境学習室「エコひろば」を中心に、地球温暖化防止のための省エネルギー教室を４回実施しました。６５名の参加を得て、今の地球がかかえている問題を認識した中、私たちに一人一人に何ができるか行動例を上げて説明しました。

また、元本郷町会からも具体的な省エネ行動を教えて欲しいという依頼を受け、３２名の参加のもと実施しました。写真は、夏休み親子省エネルギー教室での一コマです。

# 北 部 地 区 環 境 市 民 会 議

**北部地区環境市民会議が調べた環境の現状**

谷地川では、きれいな水に生息する魚を見ることができるようになったことから、水質改善への周知を地域住民に行っていきます。

みどりの拠点である滝山公園や小宮公園、粟の須緑地の保全が順調に行われている中、滝山城跡においては城郭の由来や歴史を探ると共に下草刈りに努めるほか、独自のガイドマップを作成し、多くの観光客に啓発することができました。なお、下草刈りでは、城跡での新たな遺構を数多く見つけることができました。

巡回パトロールを継続するなどした結果、不法投棄が見られなくなりました。

## 活動内容

### ■　水

谷地川にウグイやアユが戻り、子供達が水に触れて遊べるそんな川を目指し、水質調査を源流付近より多摩川に合流する新旭橋付近までの７地点で行うと同時に、水生生物の調査を実施しました。

滝山橋付近　カジカ　約５cm

水生生物は、汚れた川にすむ生物ときれいな川にすむ生物とが入り混じっているのが確認できました。

今後は、地域住民のみなさんに関心を持っていただこうと、調査結果を地域に発信し、水質改善への啓発を行っていきます。

### ■　みどり・生き物・景観

みどりは、水と共に生物の生息の基盤となるもので、多様な植生や生物の生息する場所を確保しなければなりません。

滝山城跡の草刈りをする保存会のみなさん

みどりの拠点である「滝山公園」や「小宮公園」、「粟の須緑地」などの現状を維持すると共に、滝山城跡に関しては、城郭の由来や歴史などに関する講座を加住住民協議会や関係団体などと協催した結果、地域住民の関心も高められたことから、今後も継続実施する予定です。

また、この講座と並行し下草刈りを行い、未発見の新たな遺構が数多く見つかりました。

１１月には、自然体験講座を市と協働で実施し、滝山城跡を自然観察しながら歩き、歴史研究家からの有意義な講義を受けることができました。

多くの人に滝山城を知ってもらおうと、ガイドマップを作成し、平成１９年４月１日に開設される『道の駅』に置くこととしました。

講師の説明を聴く自然体験講座参加者

有料化前と比べ、こんなにきれいになりました

## ■　ごみ

山林や道路、公園などのごみ不法投棄の巡回パトロールを５月に実施しました。

その結果、前年度より大幅な改善が確認できました。

また、市が新たに策定したごみ処理基本計画に対し、メンバー間で充分議論し、提案しました。

## ■　道路（交通公害）

簡易カプセルによる$NO_2$の測定を、国道１６号バイパスや滝山街道などの幹線道路を中心に、２２ヶ所で４回実施しました。

この大気測定結果を各地区の環境市民会議と協働して全市的にまとめ、反映させていかなければと考えます。

$NO_2$の簡易測定結果を集計

## ■　環境教育

地球温暖化、資源・エネルギーの問題は、単なる節約や里山保全、既存技術等では解決できない問題であり、革新的技術の開発が不可欠です。小さい時から環境に関心を持ち、数学や理科（科学）好きの人材を育成する必要があります。その一環として、城山・由木東両小学校の環境教育に対し、ゲストティチャーとして参加・協力しました。

# 西 部 地 区 環 境 市 民 会 議

**西部地区環境市民会議が調べた環境の現状**

西部地区は、豊かなみどりと水に恵まれ、多用な生物が生息しています。

私たちは、この豊かな自然の恵みを享受し、快適な生活を営んでいます。

ところが、山林の荒廃や排水による河川の汚染、或いは、ごみの不法投棄や緑地の宅地開発行為などにより、この自然環境を脅かしているのが現状です。

そこで、地域のみなさんと協力して、里山の復活や不法投棄の根絶を図るなど、自然環境を取り戻すための地道な活動を行っています。

なお、会員及び活動の拡充並びに組織の再構築を図るために、地区内の町会・自治会の協力をいただき、新たな取り組みに努めているところです。

## 活動内容

### ■　ごみゼロ運動

下げ坂“ごみＺＥＲＯ運動”に取り組み、ごみ回収を計画的に実施しました。

西部地区は、浅川の源流を抱え、みどりの里山が広がり、地形的にも奥が深いことから、人目につきにくい所を狙ったごみの不法投棄が横行しています。

下げ坂の不法投棄物の回収

ごみ不法投棄禁止の立て看板や“ポイ捨て止めよう！”の呼びかけポスターを無視し、無頓着にハイカーが捨てたごみや建築廃材等が捨てられています。

しかし、こうしたごみを放置していると、更に、不法投棄を誘発してしまいます。

しかし、あとを絶たない卑怯なごみ投棄を嘆いていても事態はよくなりません。

そこで、ごみの無い“川辺の林間道”の景観を取り戻し、浅川に漂流するごみの削減を目的とした、下げ坂“ごみＺＥＲＯ運動”を立ち上げました。

こうした中、川口地域の住民・町会・学校のみなさんや行政の理解と支援を得ながら、不法投棄されたごみを回収しました。その結果、５月は約１０$m^3$、９月は約３$m^3$、翌１９年の３月には約８．５$m^3$のごみを回収しました。

こうした地域の運動を続けながら不法投棄の問題に関心をもっていただければと思います。

そして、ごみ不法投棄の弊害に気付いて“ごみポイ捨てはしない“を意識し語り合い、行動する方々の影響力が広く及ぶことを期待しています。

また、市では、不法投棄監視カメラやフェンス、林道の車止めなどを設置するほか、パトロールを励行し、不法投棄を抑制しています。

こうした活動を継続しながら、不法投棄の横行にストップをかけ、水･みどりの快適景観“住みよい町づくり”に継いでいきます。

## ■　哇っこ元気くらぶ

荒廃した谷戸田

蘇った谷戸田

身近な自然の里山には多くの生命が満ち溢れています。

そこで、身近な自然環境を保全し自然体験や環境学習などを通して自然に親しめる拠点づくりの活動を平成１７年４月から開始しました。

平成１８年度は、活動エリアに掲示板を３基設置することから始めました。

その後、季節を追うごとに休耕田の草刈り、道具を保管するための物置の設置、溜池づくり、休憩場所の設置、田起こし、雑木林伐採作業などを行いました。

また、この拠点で実体験していただこうと、2月２４日には「冬の里山を体験しよう」というイベントを開催し、小学校の親子３８名のみなさんが参加しました。

当日は、自然観察や椎茸菌の植菌、また伐採木を使用してのブンブンごまづくりなどを行いました。

今後の課題としては、貴重な動植物の盗堀が頻繁に起こることから、歯止めをかけるため盗難防止用ロープや立ち入り禁止看板の設置措置が必要であることや、自然を大切にするという地域のルールづくりや意識の効用を図ることの周知徹底が大切です。

## ■　ゲンジボタルの保存活動

勉強会は大盛況

城山小学校の東側に小さな川が流れています。北側を流れる大沢川に対し、南大沢川と呼ばれています。

４月に、元八王子二丁目町会の有志が中心となって、この南大沢川の清掃を行い、その中で、地域ぐるみでホタルを保護しようという気運が高まり、６月２２日に「ホタル観察会」を開催することになりました。

観察会に先立ち、地元の公会堂において「ホタルの生きられる環境」と題して、勉強会を開催しました。また、この勉強会には、特別講師として日本ホタルの会の小俣軍平理事をお迎えして、ホタルやその餌となるカワニナなどについて分かりやすく解説していただきました。親子の参加が中心に、約５０名という満員での勉強会となりました。

観察会では、ホタルの発生ポイント３ヶ所で、約４０頭のゲンジボタルが確認でき、発光間隔が４秒以上というホタルも確認できました。

今後の課題としては、護岸工事に対する緊急避難対策として、ホタルの人工飼育に挑戦すること、また、そのためには餌が必要であり、その餌となるカワニナの確保が重要となります。

# 西南部地区環境市民会議

**西南部地区環境市民会議が調べた環境の現状**

高尾山を中心とする豊かなみどりに恵まれた地区ですが、町田街道などの大気汚染、一部河川の汚れ、車の入れる山間部における不法投棄など、取り組まなければならない問題を抱えています。また、現在建設中の圏央道による環境への影響が懸念され、騒音や大気、動植物などの自然環境を監視していく必要があります。

地域全体の取り組みとしては、地域を一つの博物館と考え、身近な自然や文化遺産等を市民の手で保存･展示し、学んだりすることのできる「エコミュージアム構想」に取り組んでいます。また、現在、市が検討を進めている旧高尾自然科学博物館跡地の「高尾の里拠点施設」の設計・運営等に対して市に提案するなど、積極的に取り組んでいます。

そのほか、地域の啓発活動にも力を入れており、市民センターまつりでの取り組み課題の展示やいちょう祭りでのごみ分別指導などにも、積極的に進めているところです。

## 活動内容

### ■　高尾山の保全

高尾山周辺は今後、道路事情により環境が激変することが予想されます。私たちは毎年、高尾山から蛇滝口へかけて「指標植物」１５本の樹木健康調査と景観写真記録により環境変化を追跡しています。また、同じ目的で来年度から日陰沢の水生生物調査記録を行います。

### ■　エコミュージアム

地域の宝を掘り起こし再認識しようと、手始めに「高尾駅周辺の地域の宝」を巡る実地踏査し、ウォーキングの案内資料を作成しました。今後、高尾駅周辺、寺田･館町地区及び里山ウォーキングを行う予定です。また、「エコ・ミュージアムマップ」の市街編と高尾編の改訂版を発行しました。

エコミュージアムマップ　高尾編

旧高尾自然科学博物館跡地に計画されている新施設にはエコミュージアムの核となる機能の設置を提言しました。

### ■　里山保全

館町　池の沢

緑地保護地域の増加を目指して、里山の現状、関連の法律、条例を調査しました。

三田、山田、東浅川、館町地区の湧水調査を行いました。

『池の沢に蛍を増やす会』と協働で下草刈りや植樹等の里山保全活動を実施したほか、市民や子ども達に里山の素晴らしさを体験して頂く「シモバシラ観察会」の実施及び「蛍観察会」、「里山環境探検隊」、「冬鳥観察会」を実施しました。

■　高尾の新しい博物館構想の検討

１０月１９日に「(仮称)高尾の里整備についての意見」を市に提出し、市民協働体制、トイレ･憩いの場、学芸員、エコミュージアム等の意見を提言しました。３月１６日に公表された市の(仮)高尾の里拠点施設基本計画の素案には、私たちの提言が一部反映されました。

■　流域の水質調査

西南部地区には、南浅川水系の案内川、小仏川、初沢川、南浅川、山田川が、また、湯殿川水系の大船川、殿入川、湯殿川が流れており、毎年６月と１２月に２０ヵ所で採水し、簡易カプセルによるＣＯＤの測定を行っています。測定を開始した２００３年頃は、ＣＯＤ：０～１（綺麗な水）は僅か２～３ヶ所しかありませんでしたが、２００６年度の測定では、綺麗な水は１１ヵ所に増え、案内川や小仏川では小魚も多く見られるようになりました。

また、館地区３００世帯の家庭排水が流れ込んでいた殿入川も、本管工事と各家庭の接続工事が完了した結果、その水質もＣＯＤ：４から２に変化してきました。ただ本管工事の遅れている湯殿川上流は未だにＣＯＤ：４以上が散見され、不法投棄物も多く、環境改善の取り組みが切望されるところです。

一方、最近は西南部地区内における河川のいたるところでホタルが飛び交う光景が多く観られるようになり、全般的には自然環境の回復が進んで来たように思われます。

■　大気汚染測定

高尾周辺の町田街道・甲州街道は相変わらず$NO_2$は０.０５ｐｐm前後を記録し、最近は法政大学に通ずるバス道路の数値もそれに近づいてきました。それ以外の地区はほぼ０.０３ｐｐmを維持しており大きな変化はありませんが、今後、中央道と圏央道の接続で裏高尾地区の$NO_2$がどのように変化するのか？高尾山トンネル工事の土砂運搬車の増加で高尾地区の渋滞と汚染がどのようになるのか？など、西南部地区の大気は目まぐるしく変化することは確実です。

行政も市民も一体となって大気汚染防止に取り組んでいく必要があります。

■　ごみ減量

ごみ量の削減に関する知識や情報をパネル化して、浅川、長房、横山南の３ヶ所の市民センターまつりや環境フェスティバル等でごみ削減の啓発活動を行いました。

また、明星大学等の協力を得て地球温暖化抑制にもつながる“炭”を利用しての「失敗しない生ゴミの堆肥化」を課題として、このノウハウの確立に努めると共に、講演会や見学会を開催し、市民参加を広く呼びかけています。

いちょう祭り・ゴミの分別

１１月のいちょう祭りにおいては、本環境委員会を主管して、２６万人の来場者と出店３００業者にごみの分別と意識向上を指導して、資源物の回収に努めました。可燃:４,２８０ｋｇ、不燃物：１４㎥、ペットボトル：１１０ｋｇ、缶：２１０ｋｇ、発泡スチロール：９０ｋｇ、ダンボール：１,８６０ｋｇ、雑誌類：７０ｋｇ

エコレシピ講座

更に、日常の生活において楽しくごみ削減が経験できるエコレシピの実習も実施しました。

# 東南部地区環境市民会議

東南部地区環境市民会議が調べた環境の現状「ふるさとの八王子を美しい街に」

東南部のみどりは、ニュータウン開発などで減少し、平成１４年では裸地を除くと２６％になってしまいました。後を継ぐ人が居なくなり、放置され、荒れているみどりも多く見受けられます。

東南部の河川の水質は、上流部を含めて「やや汚れている」の状態です。山田川の浅川合流点の水質は「大変汚い」を表すＣＯＤ値は８でした。一旦汚れた水質をきれいな水にする事は並大抵ではなく、大変な努力と時間がかかります。

ごみ有料化により、ごみ減量化への意識が高まりましたが、資源の混入をなくすために更なる分別を進める必要があります。

一方、道路や川などへのごみやたばこのポイ捨てはなかなか減らず、定期的な道路や川の美化清掃と喫煙マナーの向上が急務です。

１６号バイパスの大気汚染は、数値には大きな変化はないものの、少しずつ上昇傾向にあります。中でも、１６号バイパスの中央線高架下の数値が毎回高く、ここは道路構造上の問題もあり、行政への働きかけも必要となってきます。

## １．環境学習・啓発活動

秋の自然体験講座

次世代を担う子供たちの環境学習のお手伝いをしています。特に都立片倉高校の『奉仕体験活動ー環境分野』を支援しています。通学路のきれいさ評価（「通学路のきれいさ」は東南部のワースト５）を行ったほか、湯殿川の水質調査や大塚山公園の雑木林の保全活動を実施し、環境について体験学習をしました。生徒は「いつも普通に通っている学校周辺の道にこんなにタバコやカンが落ちているなんて。不法投棄といったものも目の当たりにした」と感想を寄せてくれました。

１０月に絹の道コースで秋の自然体験講座を行い、参加者３１名、スタッフ１９名、計５０名で大盛況でした。参加者から「自然にふれあうだけでなく、住みなれた八王子の歴史にふれることができ、大変有意義な内容でした」と感想をいただきました。

由井二小の水質調査支援、６月の環境フェスティバル、１０月の由井市民センターまつり、１１月の北野市民センターまつり、通年のエコひろばでのパネル展示を行うなど、環境の啓発をしています。

パックテスト：川の水質調査

## ２．河川・水質

４月、６月（全国一斉）、１０月及び１月に、浅川、山田川、湯殿川、兵衛川など計１１箇所の水質調査及び河川環境を調べています。

４月の浅川・湯殿川一斉清掃、９月の『八王子市みんなの川の清掃デー』、３月、６月、１２月には、片倉駅周辺の湯殿川と兵衛川の美化清掃活動を行っています。今後、流域町会との連携を深めていきます。また、小学校での環境ポスター掲示や水質調査のお手伝いをしています。

### ３．みどり・歴史景観

自然と歴史にふれあうハイキングマップ（絹の道コース）を作成し、１０月に秋の自然体験講座を実施しています。

片倉台自治会のみなさんと、絹の道の拠点である大塚山公園や御殿山尾根道を美しくする活動を行っています。その結果、大塚山公園と尾根道は見違えるほど美しくなり、八王子周辺や都心から訪れた人に喜んでいただいています。里山のごみ不法投棄が絶えないことから、引き続き監視していきます。

### ４．ごみ分別・収集・リサイクル

資源リサイクル工程見学会を実施し、その成果を「ごみと資源のゆくえ」にまとめ、分かり易くごみ減量と資源分別の必要性を訴えました。ごみの組成分析を活用し資源の混入をなくすよう、環境フェスティバル、市民センターまつり、青少対クリーン活動等でごみ減量と資源分別を訴えました。また、市のごみ組成分析作業を見学し、さらなる減量化につながような施策提案や、ごみ分別・間違いやすいもの集を作成していきます。

### ５．ごみのポイ捨て・都市の美観

９月、１０月、３月に、北野駅やみなみ野駅など東南部の６駅の周辺道路で、ごみ拾い・カウント・きれいさ評価を行っています。路上喫煙防止条例を受け、主要駅に『歩きたばこ禁止』ポスターを掲示しました。

今後も、ごみのポイ捨てと都市の美観を啓発していきます。

ごみのきれいさ評価ータバコの本数を数えています。東南部地区における主要駅前のごみのきれいさを評価しています。

### ６．大気・騒音

ケナフの花ーアオイ科ハイビスカス属。淡いクリーム色の大きな花が咲きます。

年４回（内２回は東京都一斉）の１６号バイパスでの大気汚染測定結果は、環境基準を大幅に上回る箇所も多数ありました。

原因としては、幹線道路で交通量一日約６万台の車が昼夜を問わず通行し、渋滞することにあります。行政及び事業者は、率先して排気ガスを出さない自動車を導入することが望まれます。

大気汚染浄化策の一環として「ケナフ」を栽培し、各種イベントにおいて種や苗、また、育て方パンフレットを配布し、その効用と大気汚染浄化のＰＲを行っています。

# 東部地区環境市民会議

**東部地区環境市民会議が調べた環境の現状**

東部(由木)地区の南側は多摩ニュータウンとして新たな街並みを、又、北側は多摩丘陵が東西に走り市の特色としてみどりの景観を、それぞれ形成しています。

この地区の生態系は多摩丘陵の里山を維持することで守られています。残された里山を守ろうと、自然観察会を開いたり、里山保全活動に参加したりしています。

また、ごみの不法投棄は減少傾向にあるものの、未開発地や雑木林を実踏して現状を把握したところ、相変わらず見通しの悪い場所等に不法投棄がなされていることから、引き続き現状を把握していきます。

大気と水については、環境市民会議全地区に関わることであることから、今後も継続して、$NO_2$の測定及び水系マップの作成を関係団体と連携して行っていきます。

## 活動内容

### ■　自然環境

自然体験講座

里山環境を保全・再生・支援するために、今年も『自然観察会』を「多摩丘陵の自然を守る会」の協力を得て、春と秋の２回実施しました。

その成果として、「由木地区植物目録」を作成発行することができました。

本年度は、地区の街路樹マップを作成して、由木中央市民センターまつりに“地区の街路樹”、“八王子八十八景と地区の巨樹”を紹介展示しました。

３年目となった巨樹等の調査で６割程度の地区探訪が終了し、あと２年程度で調査を終える見込みとなりました。

### ■　ごみ・資源・エネルギー

ニュータウン地区の開発が最終段階を迎えており、開発が行われていなかった土地についても順次工事が進行し始めました。そのような動きの中で、ごみの不法投棄の実態を把握するため、まだ工事が始まらない土地、法面の雑木林、大栗川等を中心に、日常活動を通じて現地の現状把握に努めました。

クリーンデーの活動（南大沢駅前）

不法投棄の主たる物としては、家電製品等の粗大ごみ、事業系ごみ、引越しに伴って発生したごみ等があります。

不法投棄は、わずかに減少傾向が見られるようですが、不法投棄を一層減少させるためには、継続的な市民・事業者への啓発活動や市への提案が必要です。

なお、南大沢市民センターまつりにおいて、最新のごみ問題・リサイクル関連情報の展示と説明による減量啓発キャンペーンを行うなど、住民の関心を高める活動を続けています。

また、年３回、南大沢中学校と南大沢地区青少対との協力で「クリーンデー」を行い、美化に努めています。

## ■　環境にかかわる実践活動

“楽しく学ぶ里山保全講座”と題して、「八王子市堀之内町会」と「(独) 都市再生機構 東日本支社 多摩事業部」の共催による『みんなで育む　寺沢里山公園のみどりと自然』と題する講座が、１月２８日(日)から３月２５日（日）までの期間にわたって５回開かれ、ニュータウン開発に里山保全の動きを取り入れる活動がスタートしました。

『楽しく学ぶ里山保全講座』

大栗川　大田平橋

## ■　河川・水質

今年も、６月に「全国水環境マップ実行委員会」や「浅川流域市民フォーラム」などと協力して、水質調査を実施しました。

今後とも、大栗川と大田川に流入する水質の実態調査を行うとともに、地域住民の方々に対し水質汚濁の原因を作る有機物や有害物等を含む生活排水を抑制するよう啓発していきます。

## ■　大気汚染

６月と１２月の２回、市内全域における$NO_2$の調査を他の環境市民会議と協力し、データ収集しました。

その結果の数値については、原因と結果の分析が必要と思われます。これからも、他の団体と連携を図りながらデータ収集を行っていきます。

また、自動車やバイクについては、アイドリング・ストップの励行、低公害車の購入・使用、ディーゼル車の排出ガス規制などを広く啓発していきます。

南大沢２丁目 交差点付近

# 地域行動編評価一覧

環境基本計画における地域行動編の平成１８年度の活動について、６地区の環境市民会議が各々内部で総括評価し、その評価を環境推進会議で相互評価したものです。

## 中央地区環境市民会議　総合評価

**【環境市民会議での内部総括評価】**

活動にあたっては、各部会、役員会、定例会を定期的に開催した。

河川巡回パトロールに重点をおき、川の環境保全のため、関係行政機関との連携しながら、子ども水辺協議会を発足させ、又自然体験講座による環境学習に努め、成果を上げた。

大気汚染については、測定箇所を増やし、データを積み上げることにより、汚染状況等の傾向がつかめてきた。

まち中の環境を知ってデータ化するためのウォッチングは、回数を重ねているものの、目標には到達していない。また、まちは緑が少なく、個人宅の緑や公園、神社・寺院などの緑は貴重である。まちの美観を保全する上での、路上での歩行喫煙禁止、マナーアップキャンペーンは成果を上げている。

ごみ減量、資源循環、温暖化防止では、各地区での環境コーナーやエコひろばでの省エネルギー教室など、多くの市民を対象とした環境学習に努め、成果をあげた。

**【環境推進会議での相互評価】**

河川巡回パトロールを熱心に取り組んでいることから、今後も継続していただきたい。

また、子どもの水辺協議会の発足により、子ども達が水に親しむ機会ができたことから、更なる活動の推進を図っていただきたい。

他地区の環境市民会議と連携を図りながら、エコひろばを活用し、今後も多くの市民を対象とした環境学習に努めていただきたい。

## 北部地区環境市民会議　総合評価

**【環境市民会議での内部総括評価】**

水、大気の分野では独自に継続的な測定を実施しデータを蓄積中で、今後の解析、有効利用に役立つものと思われる。

他の分野については数名の会員では独自の活動を行うのは難しい面もあり、エコひろば活性化委員会、もったいない委員会、湧水マップ作成委員会、エコ・ネットワーク八王子、八王子に清流を取り戻す市民の会、八大緑遊会、滝山城跡群歴史・自然を守る会、学校における環境教育等々に協力し積極的な活動を行った。

各人が、最も得意とする分野で活動し業績を上げるのは、効率的であり価値あるものと思われる。

**【環境推進会議での相互評価】**

滝山城跡を中心とした保全活動や歴史を学びながらの自然体験講座については、大きな成果が見られていることから、今後も継続して実施していただきたい。

他団体との交流を深めながらの多分野に渡っての環境教育等への協力については、効率的に活動していただき、その業績を上げていただきたい。

## 西部地区環境市民会議　総合評価

**【環境市民会議での内部総括評価】**

再活動に向けての話し合う場としての定例会や、現在の活動状況を確認し合う学習会を開催した。その中で、西部地区を、川口、元八、恩方の３地区に分け、地区毎に活動し、活動の効率性を高めることとし、又、定例会等も、それぞれの地区の状況に合わせて進めることとした。

このように、地域と密着して活動することにより、町会・自治会との関係も密になっていくと考える。

活動については、現在個々に行っている「ごみゼロ運動」や「ちぇっくどぅの普及」、「里山整備」等を一歩一歩着実に進めるとともに、会員が一丸となって活動できるよう推進する。

**【環境推進会議での相互評価】**

３地区に分けての活動を確立させ、町会・自治会との連携を図りながら、着実に活動できるよう努めていただきたい。

また、下げ坂の不法投棄におけるごみゼロ運動や谷戸田を蘇らせる里山保全活動、清流に棲息するホタルの保存活動など、個々の活動を着実に進めていただくと共に、今後は、会員が一丸となった活動を推進していただきたい。

## 西南部地区環境市民会議　総合評価

**【環境市民会議での内部総括評価】**

自然環境の分野では、エコミュージアム構想に基づく「市街編」と「高尾編」のマップを完成させ、更に「地域の宝」の掘り起しに着手した。圏央道の建設に伴う環境変化を観察するため、高尾山の環境指標植物を設定し写真による観察記録を継続している。里山保全については、ボランティア団体と協働で「ホタル観察会」や「里山探検隊」を実施し一定の成果を得た。

また、市が検討を進めている旧高尾自然科学博物館跡地の「高尾の里拠点施設」の設計・運営等に対して市に意見書を提出し、多くの人に親しまれる魅力ある施設とするよう働きかけた。

河川の水質検査と大気汚染測定については、調査結果を市民センターまつりで展示し、地域市民の評価を得た。

ごみの減量に関連して、「生ゴミの堆肥化」についての講演を主催し、市民センターまつりでは生ごみやレジ袋などの情報を展示した。また、いちょうまつりではごみの分別指導を行い、祭りの中でのごみの扱いについて一定の成果を得た。

**【環境推進会議での相互評価】**

高尾山における保全活動や地域の宝の掘り起こし作業、又、エコミュージアムマップの策定など活躍されていることから、今後も幅広い活動に努めていただきたい。

また、里山保全に関する活動では、市民はもとより子ども達にその素晴らしさを体験していただいたことの評価は高く、引き続き実施していただきたい。

ごみ削減に関する市民センターなどでの啓発活動やいちょう祭りでのごみ分別作業の参加などについては、今後も継続的に活動していただきたい。

## 東南部地区環境市民会議　総合評価

**【環境市民会議での内部総括評価】**

河川では、水質・河川環境の調査、清掃活動、小学校での河川の環境学習の支援等や大塚山公園の清掃と整備、御殿山尾根道の道路アドプトによる整備の継続、自然体験講座や地層観察会の実施、由井の里山・絹の道ハイキングマップの改訂など、成果があった。

ごみ関係では、家庭系、事業系の一般廃棄物の組成分析の縮減作業に立会えたことは有益だった。その結果をグラフ化し資源回収促進の啓発に役立てた。また、資源化への知見向上を目的に再生工場を見学し、資源の行方としてパネル展示した。

きれいさ評価として、駅周辺道路のごみをカウントした結果、ポイ捨てしやすいところ、ごみの溜まりやすいところがはっきりしてきた。また、路上喫煙防止条例の施行に伴い、主要部へのポスター掲示を行った。

大気汚染では、１６号バイパスの簡易測定値に大きな変化はないが上昇傾向にある。また、道路構造上からか同バイパスの中央線高架下の数値は毎回高く、関係機関へ働きかけていく必要がある。なお、大気汚染浄化策としてのケナフ栽培を、広く地域住民にＰＲしている。

**【環境推進会議での相互評価】**

たばこやごみなどのポイ捨て防止に積極的に取り組んでいることは評価できることから、引き続き取り組んでいただきたい。

ハイキングマップは、見やすく、地域を知る上でも有効であることから、今後もＰＲも含め、活用していただきたい。

また、高校の奉仕体験活動（環境分野）における体験学習を実施したことは今後の環境学習において先進的であり、引き続き支援していただきたい。

## 東部地区環境市民会議　総合評価

**【環境市民会議での内部総括評価】**

自然環境の分野では、里山づくりをはじめとし、自然観察会や巨樹調査など目標を達成できた。特に「多摩丘陵の自然を守る会」が完成させた『八王子市由木地区植物目録』の中の３０年前と比較して、状況が大きく変化したのは湿地の植物の多くを確認できなかったか、希少種になったことから、市民が自然と生活環境保護の立場から多摩丘陵のみどりに係わることが大切である。また、堀之内地区の「１９住区」の開発も大詰めを迎え、堀之内町会が中心になり“楽しく学ぶ里山保全講座”を開き、里山保全活動の準備を開始した。

ごみ対策では、市民センターまつりなどでのごみ減量啓発キャンペーンや町田市との境界地域の不法投棄場所の巡回を行い、不法投棄は減少の傾向にあるが、継続が必要である。

河川・水質の分野では、他団体と連携して水系マップの作成や実態調査を行った点は高く評価できる。今後は、環境診断士が中心となって、当面３ヵ年間は継続実施する計画である。

大気汚染測定は、測定点を増やすことや学校との連携・協力のための検討等が必要である。

**【環境推進会議での相互評価】**

里山を保全するための観察会を継続的に実施していることは評価できることから、引き続き実施していただきたい。また、その結果として発行された「由木地区植物目録」については、現況を知る上でも有効と思われることから、活用していただきたい。

河川の水質調査や大気汚染の簡易測定、又、不法投棄の現状把握など、引き続き実施していただきたい。